

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

人と動物にとっての安全なまちづくり：地域の生物保全と高齢ドライバーの事故誘発に動物のロードキルがどう関わるのか

2. 提案機関名

学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学

3. 提案企画の概要

首都圏周辺における野生動物の交通事故死（ロードキル）は一自治体例だけでも年間数百件と多発しており、自然環境保全上の大きな課題となっています。一方、従来看過されてきた重大事に、ロードキル発生が人間側の自動車事故を誘発する危険性があります。とくに近年増加が著しい高齢ドライバーは動物の飛び出しに安全に対応できず二次災害に発展する恐れがあります。ロードキル問題を解決し、動物と人にとって安全なまちづくりを目標に据え、地域住民と行政、専門家が作るネットワークによって自然とヒトに関わる交通ハザードマップを作成し、それを基に環境の改善案を提言、公開することで安心な街づくりに寄与して参りたいと考えます。

4. 企画の特徴

本企画は、これまで注目されなかった野生動物の交通事故が高齢化社会に及ぼす影響を探る新しい試みです。野生動物におけるこの種の事故はロードキルと呼ばれ、自然環境保全にとって重要な案件である一方、これにより増加する可能性のある高齢ドライバーの交通二次災害が危惧されるようになっていきます。しかし、それについて従来の専門家による調査では市街地での事故発生に関わるさまざまな情報を取得することは大変困難でした。この点が地域における大きな課題でした。その解決の進展には、そこに住む地域住民の持続的なマンパワーが強力な戦力となってきます。そこで、地域住民と行政、専門家の三者間の情報ネットワークを構築し、その有用性を検証するとともに、最終的に交通ハザードマップを作成するとともに環境改善案を提示することで自然環境保全と交通安全の両者に貢献します。

5. 総合所見

概ね目標とする成果が得られた。

ロードキルのマップ作りはしっかり行われており、その点は評価できる。しかしながら、周知・準備不足があったため、目標とする成果が十分に得られなかったことは残念である。

本テーマは独創性や社会的意義の認められるものであり、住民を取り込む工夫について既存のグッドプラクティスの手法も参考にしながら、活動が継続されることを期待したい。

6. 実施者からPR・感想について

野生動物の事故はロードキルと呼ばれ、自然環境保全にとって重要な事象ですが、他方動物の飛び出し等が高齢ドライバーの運転操作ミスを誘発する可能性も懸念され始めています。本企画は、野生動物の交通事故の実態と環境条件との関連を明らかにしながら、それが高齢化著しい我が国の交通社会に及ぼす影響を探るという新しい試みです。東京都日野市全域の实地踏破によって事故が発生しやすい環境条件を事故実績データとともに精査分析した後、要注意道路を視覚的に明示するハザードマップを作成し、これを用いてドライバーに注意喚起するのが目的です。今後はこのハザードマップを、行政、とくに交通指導にあたる警察や市役所、学校関係者に広く頒布し、交通事故防止の啓蒙に役立たせるべく、関係者に参考にして戴くこととなります。この活動では動物事故の専門家だけでなく市民グループや行政関係者の目線を交えての作業が要でしたが、立場の異なる意見を多く参考にできたことで、社会の中の事象には解析の目線の多角性が必要であることを改めて認識できたことも収穫でした。今後の改訂作業にはさらに多くの目線の参加を歓迎したいと思います。



ロードキル危険道路の最終検討作業



動物の種類や生態についての事前講義風景

以上